

2025年（令和七年）

10月24日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（10月16日～22日）の国際石油市場は、米中・米印の関税交渉の進展、米ロ電話会談・米ウクライナ首脳会談の模様、米国の戦略石油備蓄（SPR）の積み増し、米国石油在庫状況等を要素に、狭い範囲で、前週よりはわずかに軟調に推移した。

NYのWTI原油先物市場は、10月16日は3日続落の5か月ぶりの安値57.46ドルで始まったが、週末17日は小反発の57.54ドル、週明け20日には57.52ドルまで低下したものの、21日は反発、22日は続伸の58.50ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（11月渡し）も、前週（10月9日～15日）は62.50～66.10ドルの範囲で推移したが、当週は、10月16日62.20ドル、17日61.30ドル、20日61.20ドル、21日61.50ドル、22日62.90ドルだった。

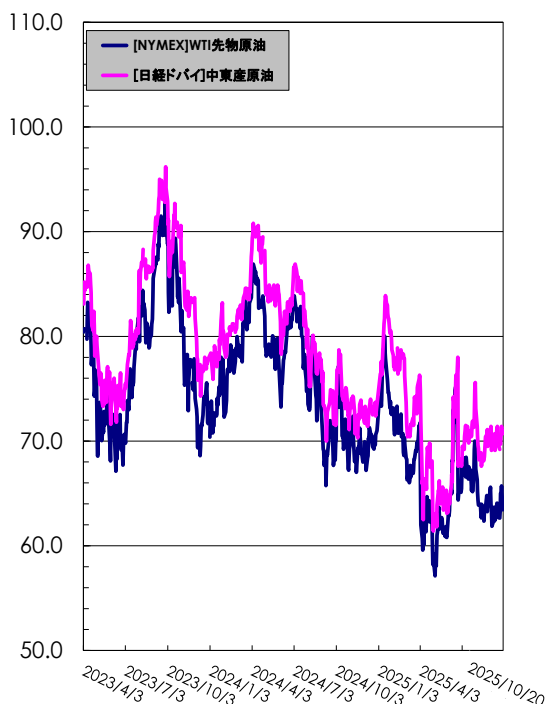
対ドル為替レート（TTM）は、前週（10月9日～15日）51.67～153.09円の範囲で推移したが、当週は、10月16日150.23円、17日150.18円、20日151.00円、21日150.56円、22日151.71円だった。

財務省が10月22日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、9月下旬の原油輸入平均CIF価格は67,966円/KLで前旬比1,120円/KL高、ドル建てでは73.27ドル/Bで前旬比1.24ドル/B高、為替レートは1ドル/147.48円。また、8月月間の原油輸入平均CIF価格は67,793円/KLで前旬比832円/KL高、ドル建てでは73.02ドル/Bで前旬比0.96ドル/B高、為替レートは1ドル/147.60円。

そのような中で、10月20日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比・重油の場合は5.0円となった。0.2円安、軽油も同0.2円安、灯油は同横ばい（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は174.5円だった。10月23～29日の燃料油補助金の支給額は、「予防的な激変緩和措置」が廃止されているため、引き続き、定額分のみ、ガソリン・軽油は10.0円、灯油・重油の場合は5.0円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量（千kl）	10/12～10/18	2,542 ▲37	▼－
	トッパー稼働率（％）	"	73.4 ▲1.0	▼－
	原油在庫量（千kl）	10/18	10,405 ▲117	▼－
価格	中東産原油（日経バイ）（\$/bbl）	10/21	61.20 ▼-2.20	▼-11.9
	WTI先物原油（NYMEX）（\$/bbl）	10/20	57.52 ▼-1.97	▼-13.0
	原油CIF単価（\$/bbl）	9月下旬	73.27 ➡0.00	▼-9.56
	①原油CIF単価（¥/kl）	"	67,966 ▼-120	▼-7,228
	②ドル換算レート（¥/\$）	"	147.48 ▲0.27	▼-3.16
	外国為替TTSレート（¥/\$）	10/21	152.00 ▼-88.60	▼-1.57

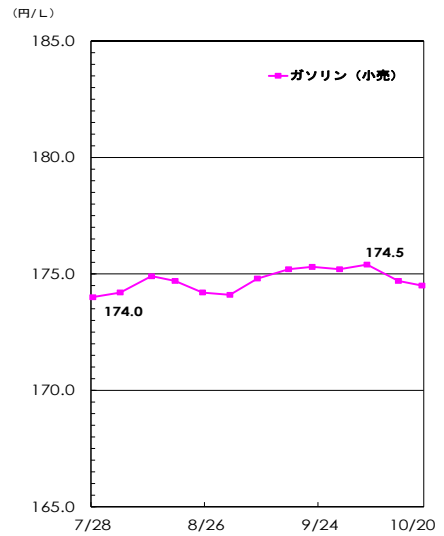
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	10/18	1,621	▲ 57	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/14 ~ 10/20	80.6	▼ -0.4	▼ -0.4
		(TOCOM/中部) 10/20	80.0	▼ -1.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 10/20	174.5	▼ -0.2	▼ -0.4

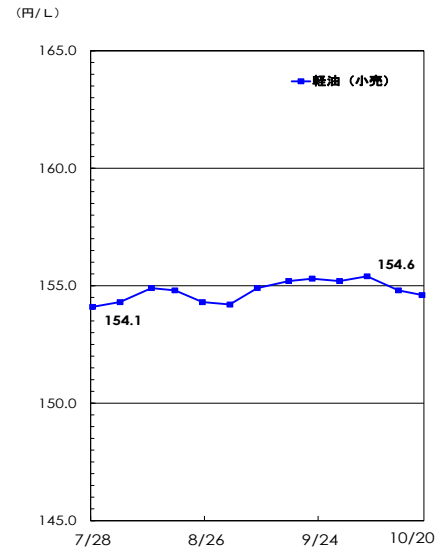
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

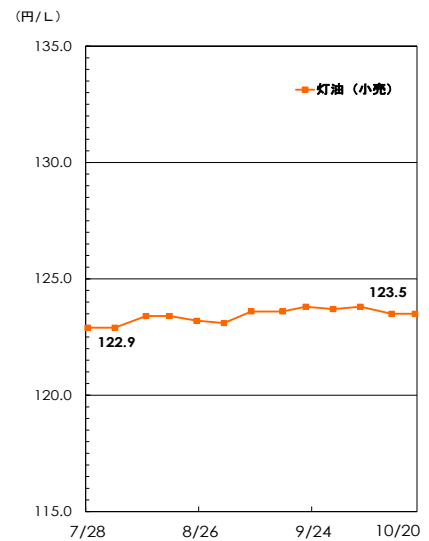
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	10/18	1,432	▼ -68	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/14 ~ 10/20	82.3	▼ -0.6	▲ 0.4
		(TOCOM/中部) 10/20	-	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 10/20	154.6	▼ -0.2	▲ 0.1

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	10/18	2,835	▲ 22	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/14 ~ 10/20	84.6	▼ -0.4	▲ 4.2
		(TOCOM/中部) 10/20	82.0	→ 0.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 10/20	123.5	→ 0.0	▲ 6.2



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(10月9日～15日)のNYMEX・WTI先物市場は、58.27～61.51ドルの範囲で推移した。

当週10月16日は、前日夜トランプ大統領がインドのモディ首相はロシア原油の輸入停止を約束したと発言、朝方買い優勢で始まったが、米国エネルギー情報局(EIA)は国内原油在庫の積み増し、製油所稼働率の低下を報告、米国内石油需要は弱含みとして、また、午後、トランプ大統領がブーチン大統領と電話会談、ウクライナ停戦を巡り「大きな進展」があったとして、ハンガリーでの直接会談で合意(後日、先送り決定)、緊張は緩和したとして、値下がりし、3日続落となった。11月物終値は前日比0.81ドル安の57.46ドル。

週末17日は、トランプ大統領が、ウクライナのゼレンスキー大統領とホワイトハウスで会談、トマホークミサイルの供与に消極姿勢を表明、また、米高官から米中対立緩和に向けた発言があり、さらに、安値拾いの買いも見られて、4日ぶり小反発した。11月物終値は、前日比0.08ドル高の57.54ドル。

週明け20日は、中国の本年第3四半期の経済成長率(GDP)が4.8%増と前期の5.2%から減速、先行き経済停滞懸念から、小幅ながら反落した。ただ、米中貿易摩擦緩和観測等に伴う米国株式の上昇、投資リスクの軽減ムードもあ

り、下げ幅は限られた。11月物終値は前週末比0.02ドル安の57.52ドル。

21日は、翌日のエネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報の発表を前にして、売り買いが交錯したが、安値拾いの買いが優勢で、小幅に反発した。11月物終値は0.30ドル高の57.82ドル。

22日は、米国の前週末の石油在庫が、原油が予想に反する、また、ガソリンも予想を上回る取り崩しであったこと、さらに、前日の米エネルギー省の戦略石油備蓄(SPR)の積み増し(100万バレルを12月から来年1月に購入)発表で、需給改善期待から反発した。加えて、米中貿易交渉の好転、米印貿易交渉の早期締結の期待も高まった。11月物終値は1.26ドル高の58.50ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)の一日遅れの10月16日発表の10日現在の米国在庫週報によれば、ガソリン在庫は30万バレル減(市場予想:10万バレル減)と取り崩しとなったものの、原油在庫は350万バレル増(市場予想:30万バレル増)と予想を大きく上回る積み増しとなり、米国内製油の稼働率低下報告と相まって、米国内需要の弱含みを印象付けた。また、22日発表の17日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は100万バレル減(市場予想:120万バレル増)と4週ぶりの予想に反する取り崩し、ガソリン在庫も210万バレル減(市場予想:80万バレル減)と予想を上回る取り崩しと、米国内の需給緩和拡大の観測は後退する結果となった。

EIAによると、10月20日時点で、ガソリンの小売価格は、

前週比4.2セント安の1ガロン3.019ドル(121.4円/ℓ)と2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比4.6セント安の1ガロン3.620ドル(145.2円/ℓ)と3週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、10月17日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの418基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、10月12日～10月18日に休止したトッパ能力は46.2万バレル/日で、前週に対して2.9万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は254.2万klと、前週に比べ3.7万kl増加。前年に対しては1.8万klの減少。トッパ稼働率は73.4%と前週に対して1.0ポイントの増加、前年に対しては0.5ポイントの減少となった。

4 国内/製品在庫量

10月18日時点の在庫は、前週に対してガソリン、灯油、A重油は積み増し、ジェット、軽油、C重油は取り崩しとなった。

ガソリンは162.1万kl、前週差5.7万kl増。前年に対しては8.9万kl少ない。

灯油は283.5万kl、前週差2.1万kl増。前年に対しては22.0万kl多い。

軽油は143.2万kl、前週差6.8万kl減。前年に対しては1.0万kl多い。

A重油は78.1万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては3.8万kl多い。

C重油は154.4万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては16.7万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (10/18)	前週 (10/11)	前週比	
ガソリン	1,621	1,564	▲ 57	(4%)
ジェット燃料	886	944	▼ -58	(-6%)
灯油	2,835	2,813	▲ 22	(1%)
軽油	1,432	1,500	▼ -68	(-5%)
A重油	781	776	▲ 5	(1%)
C重油	1,544	1,561	▼ -17	(-1%)
合 計	9,099	9,158	▼ -59	(-0.6%)

5 国内/元売会社製品卸価格

10月14日～20日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替レートも円高に振れ、元売会社の卸建値は大きく値下がりしたものと見られる。また、9月4日以降、補助金は、定額(揮発油・軽油は10円、灯油・重油は5円)で据え置かれていることから、補助金込みの実質卸価格はそのまま値下がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

10月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の174.5円、軽油も同0.2円安の154.6円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで同横ばいの2,223円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでも同横ばいの123.5円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週ぶりに値下がり止まった。ガソリンについて、都道府県別には、値上りが17道府県、横ばいは3県、値下がり27都府県だった。全国最安値は愛知県の169.0円、その次は埼玉県169.2円であった。他方、最高値は鹿児島県の185.5円。最も値上りしたのは沖縄県(前週比1.7円高)、最も値下がりしたのは岡山県と島根県(同各1.0円安)だった。

次回調査時(10/27)のガソリンの小売価格は、値下がり予想される。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/20)	前週 (10/14)	前週比	直近高値	
レギュラー	174.5	174.7	▼ -0.2	2023/9/4 2025/4/14	186.5
灯油	123.5	123.5	→ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	154.6	154.8	▼ -0.2	08/8/4	167.4

小売価格

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第30号)の公表は、10/31(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘッドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange:NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate:中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。